

ま な び や 目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.25 2010年7月9日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。エアコン室外機設置でやむなく抜いたアガパンサスを、ダメもとで通用口前の花壇に移植したら、薄紫の花をたくさん咲かせてくれました。いつのまにかその脇にノカンゾウ（たぶん）もオレンジの花を。うっとうしい梅雨の季節ですが、チャペル往復の折、学びに疲れた神学生の目を楽しませてくれます。バラ栽培が趣味という、キリスト教教育S師の庭もいつか訪れてみたいです。ステキでしょうね。「栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした」

(マタイ6:29)

校長 関野祐二

● すし詰め箱詰め四列縦隊

お祈りいただいた新入生、すでに神学校ニュースでお伝えした通り、今回も試験当日の面接は夜8時10分までの耐久レースで（編入生は2組で合同面接）、正規生新規10名、聴講や他校からの正規生編入8名、聴講生新規4名、計22名が決定。例年は0年受験者が複数いるのですが、今年は20代が9名、40～50代が13名という構成です（在校生に多い30代はゼロ）。関東圏の他校も同じく入学者が多かったようで、喜びを分かち合っているところ。我が担当の新約通（痛）論はついに22名の新記録で、教室は机4列のすし詰め状態。後ろまで声を届けるのがたいへんです。クイズ（小テスト）で凹んでも何のその、若いエネルギーで盛り上がってますよ。

ところで、前回レターのクイズ正解、わかりました？ 問題再掲「今回の入学希望者の中に、ある共通点を持つ方々が複数います」。正解は... 親子兄弟の入学者です（実は4月の神学校ニュースに掲載済み）。親に続く子が2名、弟に続く兄が1名。あいいうえお順のメールボックスに同じ名字が並んで、ちょっとほほえましいです。新約クイズ問題のリーク懸念も心配ご無用、しっかり学べと発破をかけているような。あ、もうひとつありました。同じ大学出身者が3名同時入学、これも珍しいですね。本人たち曰く、申し合わせたわけではないそうですから摩訶不思議。こちらでも学閥(?)を懸念しましたが、取り越し苦労だったようで、みんなと溶け込み生き生きと。

● ついにチャペルも食堂も

次はこれだと決めていたのです。築43年目の本館1階食堂と、39年目の別館1階チャペル。いずれも半地下のような構造なので比較的涼しいのですが、それでも真夏はたいへん。食堂は暖房もないので、秋～春は寒くて不便をしていました。チャペルの窓を開け放ち、風を入れる時に限って、廃家電回収車が高音量で通り、チャペルタイムの雰囲気も台無し（先日は開いた入り口からスズメが迷い込んで大捕物でしたよ）。入学者が比較的多かった今春、補正予算を組んで業務用大型エアコン設置に踏み切りました。社会標準からすれば騒ぐことではないけれど、かなり暑

なくなったこの時期、窓を全開にしながら「今日も学生にガマンしてもらわないと」とチャペルタイム開始前にため息をつくことがなくなり、あらためてストレスだった日々を振り返っています。

長年チャペルで愛用した、例の首長扇風機（最高風量にすると飛ばされそうな風のアレです）の運命はどうなりましたって？ 処分しようとした日が雨で、工事と業者引き取りは翌日に延期。次の日は晴れて、引き取ってもらうため2台を外に出しておいたら、ある在校生が「ちょうど教会が会堂を建てて、フロア型扇風機2台を買おうとしていたのです。ぜひこれをください」と。ああよかった。これで嫁入り先も決まりました。ちょっと古びたヨメですけど、新会堂で第二の人生なんてすばらしいですね。いつまでも壊れずに、ガンガン風を吹きまくってくださいね。

● はやぶさくん、お帰り！

小惑星探査機「はやぶさ」よりも、はやぶさくんと呼ぶのがふさわしいほど、奇跡の管制能力で傷だらけの機体にむち打ちながら地球を目指し、本体はオーストラリア上空で燃え尽きるも、分身のカプセルがピンポイント精度で砂漠に落下、無事回収されたドラマは日本中を沸かせました。どうやらカプセルには微粒子が入っていたようで、イトカワ（着陸した小惑星の名前）起源が期待されますね。当然、授業でも「小惑星とは」「イオンエンジンとは」「どうやって絶体絶命のピンチを切り抜けたか」の特別講義。W杯なんのそのです。6月21日の夏至には、黒板に地球の地軸と南北回帰線を描き、なぜ北回帰線の通る台湾ではこの日の正午、太陽が頭上に来るのかを説明（クラスに台湾人のK兄がいるので説得力あり）。やっぱり、私たちが生き、生かされている地球や太陽系を知らないと、大局的かつ地に足のついた伝道もできませんからね。何？ 取って付けたような理由に聞こえるって？ いえいえ、自他ともに認める一般啓示研究所所長ですから。その教育効果か、先日の夜いつものように本館屋上で星見と踏み入れたら、暗やみからいきなり「こんばんは」の先客。不整脈が完治しそうでした。大都会でもそれなりに☆は見えますからね。

● 夏休み前あれこれ

新入生もすっかり学校に慣れ、各々のペースで学んでいます。空き時間の午後もたくさんの方が教室やラウンジに居残っているのは、今年度前期の特徴。5科目履修者がけっこういて（涼しい顔でこなしてますよ）、午前と夜の間、自主トレに励んでいるのです。みんながんばって学ぼう、という雰囲気と機運があるのは、教える側としてもうれしいもの。もっと難しいクイズを、とエスカレートしそうです。5月末の神学校対抗（親善とは名ばかり）ソフトボール大会は、レギュラーキャッチャー（事務員兼我が妻）が休場したせいか惜敗。Y先生の霊性セミナーも、教職者が複数いる参加者でほぼ定員の盛況。かくいう筆者は、クイズとレポート採点で青息吐息。既刊「聖書神学事典」に教師3名がかかわり、押し売り営業で学生に50冊近く売りさばきましたよ。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 在校生72名の学びと健康が、夏休み（7/23～8/29）明け10月2日までの前期、支えられるように。後期からのふさわしい聴講生が多く加えられるように。
- ・ 後期から宣教学を担当するカールソン先生、説教学Aを担当する松原先生の準備と働き。
- ・ 教会に仕えつつ働き人を訓練し養成する神学校の働きが守られ、キリスト教界における使命を全うできるように。教職員15名、運営委員3名、理事5名の働きが支えられるように。多くの支援者が備えられ、運営面や経済も守られるように。